

## 令和5年度後期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末に学生に向けて「授業改善に資するアンケート」を実施している。この「授業改善に資するアンケート」の結果に対する所見、および、教育改善のための有益なコメントや要望等を授業担当教員から「授業改善メモ」として提出してもらい、内容を取りまとめてホームページ上に公開している。

以下、令和5年度後期の授業に対して提出された授業改善メモを

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態等）

に分類し紹介する。なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

### 初年次セミナーII

#### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・毎時間の小レポート作成のために数時間はかけている。「400字以上」と設定したが、予想以上に時間がかかっている。授業外学習の時間にカウントするようにアドバイスした。
- ・「30分以上1時間未満」39%、「1時間以上1時間30分未満」29%が分布として最も多かった。事前学習、事後学習が設定されており、ある程度学習時間は確保されていると思われる。
- ・少ないように感じるが、学習時間だけでなく普段から「考える」ことをしてきたことが、最終プレゼンテーションや提出物からわかる。
- ・前年度よりも授業時間外学習の平均時間がやや減っているが、単位認定率は少し改善された。より効率良く課題をこなすことができるようになったのかもしれない。ただし、期末レポートの内容の改善が見られたという訳ではない。期末レポートをまとめる上で必要な調査を増やすように促したい。
- ・週1時間ほどの授業時間外学習をしている学生が最も多かった。小テスト、提出課題、最終レポート執筆等のワークを考えると、もう少し学習時間があってもいいと思う。
- ・量的には、文科省の定める大学設置基準に遠く及ばないと思われる。授業外での学習の進捗に関する授業時間内でのチェックを頻回に行い、個別の指導を強化する。
- ・授業時間外学習自体は、概ねデザイン通りに取り組んでいると言える。スモールステップで少しずつレポートを作成してもらったため、ある程度の授業時間外学習は必要であった。
- ・概ね学習時間は確保されているものの、「1時間以内」の回答も13%見られた。授業の中で、時間外学習の内容と次回の授業内容との対応性・必要性について確認したい。

## 2) 受講生が実感する学習成果

- ・グループ学習の評判が悪い。班編制に不満があるようだが、自由に班を作らせると学科で固まる傾向が強い。
- ・授業時間外学習時間の微減に伴い、学習成果を十分実感できた学生の割合も微減した。授業時間外学習の成果を成績に反映させるための具体的な工夫について解説していきたい。
- ・論証型レポートの基本的な型や決まりなどを学ぶことができてよかったという意見が多かった。今年度は「書き方案内」がなかったが、昨年度はかなり役に立ったので、今回はこれも教材に含めたいと思う。
- ・よく学習していると思われる学生からは、初年次 WG が製作する共通教材も、また、本クラスで独自に配付した教材も好評であった。今年度からテキストが新しくなったので、このテキストの活用法をさらに深めていき、実践に移したい。
- ・概ね好意的に捉えていると考えられる。「今後の学生生活にも役立つような知識をたくさん知れた」といったコメントにもあるとおり、単にレポートを書くだけでなく、それが2年生以降、社会に出て以降どのように結びつくかを意識して授業デザインした点が良かったと思われる。

## 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ノートをたくさんとる必要がないように、授業内容の資料はすべて事前公開している。
- ・「積極的に促していた」54%、「おおむね促していた」43%、合計97%で評価が高かった。講義中にグループワークの時間を多くとったためと思われる。
- ・同じ講義を3クラスで行っているにも関わらず、自主的な考察・取り組みについてクラス間で開きがある。グループワークを制限時間終了前に早々切り上げてしまう事例が見られた。授業進行の段取りの良さとの関係があるかもしれない。授業進行のシミュレーションを行い、適切なグループワーク進行を指導したい。
- ・最終レポートを書くときは、授業中に個人の執筆時間を多く取ってもらえてよかったといった感想がいくつか見られた。レポート執筆時には特に教員からの説明は必要最小限にとどめて、質問がいつでもできるような雰囲気作りをしていきたい。
- ・学生の回答から判断するに、ペア学習・班学習については、今期は支障なく行われたと考えられる（前期はグループプレゼンなので、フリーライダー対策が課題）。授業時間中でのペア学習・班学習は順調だが、これを同授業時間外の準備学習にどう繋げるか、例えばFDなどで本科目担当者のフリーライダー対策について交流したい。
- ・スモールステップで各回の宿題をこなすことにより、レポートを書くようデザインしたり、個人でのフィードバックを重視した。「先生が親身になって相談会を開いてくれたり、自分のコメントをつけてくれるような機会があって課題等も進めやすかった」といったコメントにもあるように、この点は学生にも好意的に受け止められていたと考えられる。
- ・意見交換が滞っているグループには、タイミングをみて、議論を活性化するためのヒントを渡していきたいと思う。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・動画配信で授業内容が再度閲覧できるようにして欲しいとの要望があり、授業内容はすべて動画配信し、復習できるようにした。
- ・「おおむね良かった」が大半であり、十分な満足度を与えられていない可能性がある。グループワークの内容や進行法に問題点があるかもしれない。グループワークの目的・目標を明示して、総合評価の改善に資することができるかもしれない。
- ・テキストやワークシートにはない、教員独自の修学指導を加えたことが評価されている。
- ・説明や解説がわかりやすいという感想が多かった。ただ、授業後半では個人ワークが主体となったため、ペアワークが少ないことに不満を持つ学生もいたようだ。レポートの執筆は学生によって進捗の差が大きいので、一律に同じワークを課すのではなく、個人の進度に配慮した授業をする必要があると思う。
- ・アンケートに回答している学生からは概ね好評であったが、回答していない学生が気になる。授業アンケート以外の方法で学生の本科目に関する見解を聞き、担当教員集団と議論する回があってもよいのではないか。FD委員会に期待したい。
- ・「先生が親身になって相談会を開いてくれたり、自分のコメントをつけてくれるような機会があって課題等も進めやすかった」といったコメントにあるとおり、学生個々に寄り添った授業は展開できたと考える。相談会などは良くできている学生がより頑張るための機会になっているので、もうちょっと頑張ってもらいたい、という学生をどう巻き込むかが課題である。
- ・ペア学習で他学部の人と交流したり、お互いのレポートを推敲し合ったりできたとのコメントがあった。振替授業の日程はできる限り早く伝達したい。ペアの相手の入れ替えも内容の進捗度により検討したい。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・不登校気味の学生が1割程度存在するため、対策が必要である。
- ・今年度の金曜日の最終講義日は2月2日で、アンケートの締切（2月1日）後であった。できれば、すべての講義の終了を待って、アンケートを締め切ってほしかった。
- ・文献の引用に対してもっと時間を割くべきである。
- ・授業担当教員が志向する「論証型レポート」（argument statementに基づくもの）と教科書のモデルレポートの内容が大きく異なるという指摘があった。教科書巻末のモデルレポートは、適切な体裁について例示したものであって、必ずしも十分な（何をもち「十分」とするのか一概には言えない）論証を含めたものとは限らない、という補足説明が必要であろう。
- ・図表についての内容があまりなかったように感じた。以前配布された「レポートの書き案内」に載っていた図表サンプルを使って、基本的なルール等を解説したいと思う。
- ・授業時間中の取り組みなど日常的な学習や授業運営は一定の成果を上げたと思われるが、提出された最終レポートを見ると、よくできている者とそうでない者との落差が激しい。下位層の学生の意欲を高める方法について、さらに勉強して改善したい。
- ・今年は「遅刻」の学生が多かったと感じた。自分のクラスだけだったのかよく分からないが、そういった基礎的な指導も必要なのかと考えてしまった。遅刻の規定は大学、共通教育で

一律定めてもらえると評価がしやすくなったり、学生にもメッセージになると思われる。

・ペアワークにおいて積極的な意見交換がなされ、刺激を受けていた様子であった。可能な範囲において異なる学部でペアをつくる機会をもうけたい。

## 体育・健康科学実習

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・「全くしなかった」、「30分未満」が合計43%で全体の1/3以上を占め、前期と比べ5ポイントほど上昇していた。レポート課題や生活での実践を伝えているが、日常的な授業時間外学習として時間の確保ができていない現状がある。講義内において学習したことを実践に移すこと（日常生活で実践すること）の重要性、また、それが授業時間外学習になることの周知を図っていききたい。

・多くの学生が、ほとんど授業時間以外での学習をしていないか、していても1時間未満となっていた。より具体的な予習、復習内容をこちらから提示して改善を図る。

### 2) 受講生が実感する学習成果

・「十分得られた」と「おおむね得られた」の合算は98%であった。部門内での講義FDや今年度より作成したmanaba教員用コース、授業計画案の作成等の効果が前期に引き続き見られていると考える。今年度から完全対面での講義となっているが、担当教員での情報共有や授業改善等を行いながら、学生が学習成果を実感でき、それを日常生活に活かせるよう、更なる工夫を図っていききたい。

・比較的多くの学生が学習成果を得られたと回答しており良かった。これからも、授業で行う内容をきちんと提示して、授業を行っていく。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・「積極的に促していた」と「おおむね促していた」の合算は96%であった。部門内での授業改善の効果が見られている。授業内では体力測定を実施し、その結果の分析・評価を行うことで、より自分自身の健康課題について捉えることができたことや、教員による丁寧なフィードバックも結果に反映されていると考える。必修単位として、理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の情報共有等を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように、テキストの編纂等によって授業内容の継続した改善を図りたい。

・授業の中で自主的な考察や取り組みを行うことができたという回答する学生が多かった。引き続き、学生との対話を大切にしたい授業を行う。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・「とても良かった」と「おおむね良かった」の合算は99%であった。学生のコメントからは、「日頃の運動に関しての授業が多く良かった」、「教員が生徒のことをよく気にかけていた」、「楽しむを重視した授業で、楽しく取り組めた」、「色々な人と関わった」など、体力測定から自分自身のデータを分析・評価することで、日常的に健康をとらえるきっかけとなったことや、身体を

動かす楽しみを理解してコロナ禍で希薄化した交友関係を築くきっかけになっていたことが考えられた。また教員も各種スポーツ等に取り組み、学生と丁寧な関わりを持っていたことが、学生からの評価が高くなっていることと関連があると考えられる。総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善等を行っていききたい。特に、日常生活への還元という点において、より学生への促しを図っていききたい。

・受講者の男女比の偏りが気になるという指摘があった。なるべく男女比が同じになるような形で、クラス分けを行うことも考えなければならない（共通教育であるならなおさら可能ではないか）。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

・「後期授業で仕方がないが、屋外での授業が厳しい」という声も聞かれたため、天候などにも配慮した授業構成等を検討していく必要がある。事前に授業場所の周知、道具等の準備について連絡を入れているが、把握していない学生も多いため、manaba 等の設定や定期的の確認をすることを引き続き伝えていきたい。

・紙媒体でのレポート提出が本当に必要なものであるのか、再考する必要があると思われる。場合によっては、manaba での提出についても選択肢として考えていく必要があるだろう。

### **体育・健康科学理論**

#### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・「全くしなかった」、「30分未満」が合計48%となり、全体の1/2ほどを占めていた。レポート課題や小テスト、日常生活での健康行動の実践などを伝えているが、日常的な授業時間外学習として時間の確保ができていない現状がある。

・講義内において、授業後に毎回ミニッツペーパーとしての課題の取り組みだけでなく、学習したことを実践に移すことの重要性や、学んだことを意識して何かに取り組んだことが授業時間外学習になることの周知を図っていききたい。

#### 2) 受講生が実感する学習成果

・「十分得られた」と「おおむね得られた」の合算は96%であった。日常生活における健康の重要性や、体育・健康科学実習と関連した授業内容にしていることから、学生が学びを深めやすく、実感しやすい授業になっていることが考えられる。

・必修単位として、理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の情報共有等を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように授業改善を行いたい。また、日常の生活における健康の重要性について学び、日常生活に活かすことのできる授業内容としていきたい。

#### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・「積極的に促していた」と「おおむね促していた」の合算は95%であった。授業内では、responを使ったアンケート共有、授業のミニッツペーパーによる感想や質問の共有や回答を行い、自分自身の健康や周りの家族等の健康について考える機会となっていたと考えられる。また、実際に

身体活動を取り入れることで、運動や健康に関しても興味を持ち、実践に移すことにつながったのではないかと。

- ・100名規模の対面の講義形式の授業となり、学生の取り組み状況が見えにくいため、引き続きミニッツペーパーやresponなどを活用していく。さらに、自分自身の健康に興味を持ち、実践に移すことができるよう具体的な活動を取り入れながら、自主的な考察や取り組みを促したい。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」と「おおむね良かった」の合算は98%であった。学生のコメントからは、「他の学生と授業内容について話す時間があった」、「友達とのコミュニケーションを図る時間を多く設けていた」、「実例や映像などの紹介があり理解しやすかった」、「講義中に簡単なストレッチの実践など、身体を動かす機会があった」など、授業内容や自身の健康課題等について、他者の意見を聞きながら考えることができていたことや、講義だけでなく、実際に身体を動かすなど、実生活に活かす取り組みができていたことが総合評価につながったと考える。

- ・総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善等を行っていききたい。学部の特長も踏まえつつ、学生とのコミュニケーションを図りながら行う授業展開を検討していきたい。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・「課題の提出期限が短い」という声も聞かれたため、他の授業との関連の中で、課題提出日の設定等も工夫したい。

- ・ターム制もあり、第4タームでは課題を事前に伝えるようにするなど工夫をしていた。学生への伝え方等引き続き対応したい。

## **英語**

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・66%の学生が「1時間30分以上3時間未満」であった。課題の学習に適切な時間であると思う。
- ・半数以上の学生が1.5時間程度行っており、十分な学習時間を確保できている。
- ・例年と比較して課題量を増やしたため、全学平均より多めの学習量となったようだった。
- ・The majority of students seem to be spending a reasonable amount of time on outside study, though it is difficult to encourage them to do more than the minimum required.

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」60%、「おおむね得られた」40%となっており、最新の科学の動静、専門的表現および専門用語の学習などには関心度が高いようである。

- ・The majority of students reported positive learning outcomes though it can be hard for them to feel it over the course of one semester.

- ・すべての受講生が学習成果を実感できたと回答しているが、「十分得られた」を増やしたい。

- ・All of the respondents gave either a 1「十分得られた」or 2「おおむね得られた」for this question.

This shows that there is overall satisfaction with the outcomes of this course.

・「十分得られた」40%、「おおむね得られた」40%、「あまり得られなかった」20%となっており、受身的態度でグループワークにかかわった場合には、効果が認識できていないようである。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・「積極的に促していた」80%、「おおむね促していた」20%となっており、大学生らしく自主的に考察しながら、プレゼンテーションの準備に取り組んでいたと思われる。

・ The results here are quite high, which is encouraging. It seems to be a reflection of the group work and engaging with the course material every class.

・ グループで発表やディスカッションを行う時間を設けたが、グループ間で学習意欲に差が出ていた。

・ 事前学習対象となる英文をパラグラフ単位で要約すること、phrase ごとに意味のまとまりを付けていく訓練、ペア・グループ活動内での輪読・演読を心掛けた。

・ ディスカッションとプレゼンテーションを取り扱ったが、クラスの中で意見の交換やプレゼンを行うために話しやすい雰囲気作りを心がけた。実際、話しやすい雰囲気だったというコメントが多かった。

・ 授業後半のグループワークで学習内容を活用させていたので、「積極的に促していた」と「おおむね促していた」が多かった。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・「とても良かった」40%、「おおむね良かった」60%となっており、グループワークとプレゼンテーションの頻度がちょうど良かったと書かれてあった。

・ I am happy with the feedback from students. There were many positive comments about my class management, group work, and the assignments given.

・ Student comments were very positive. They appreciated the large amount of group discussion, the enjoyable game-like class activities, and amount of English used. They also appreciated the amount of feedback received on their assignments.

・ The students wrote comments on how much they enjoyed doing cooperative/group based work throughout the course.

・ 授業運営には毎年試行錯誤している。アンケート結果を見て肯定的なコメントが多く驚いた。しかし、教科書の課題に対する振り返りが少し雑な気がした、というコメントが1名あり、今後の留意点としたい。

・ リスニングの訓練が欲しいという意見があった。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

・ グループで意見交換を頻繁に行うのは、学生によっては苦痛ではないかと感じることもあり、来年度は工夫が必要だと思っていたが、コメントでは思っていたよりは好意的な意見が多かった。

・ 難易度的に問題なく、解説もよくされていたというコメントが共通してみられる。テキストの

中で重要性が高い箇所を担当教員が意識してスケジュールを組んでいた点、英語力向上のための措置が手厚かった点などが書かれている。

- ・ 対面授業で行ったため、学生間で教え合ったり、確認ができていた。また、毎回のグループ活動を通してお互いに学びを深められていたようである。

- ・ The students were genuinely interested in each of the reading units. Attendance and good study habits with submitting homework was evident from start to finish.

- ・ この講義では学生に様々な英語演習理論を教え、積極的に演習させて、とっさに英語がしゃべれるようになることを目標としたが、最後のスピーキングテストでその成果は出ていたので、目標は達成できたと思う。

- ・ 教科書を消化することが本コースの最終的な目標ではないし、教科書はあくまでも学習・練習のツールの一つに過ぎないとしても、もう少し教科書を進めたい。

- ・ 遠隔授業より対面の方が効率がよく、学生の状態が掴みやすい。

## 初修外国語

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 「2 時間以上 3 時間未満」が 44%と高かったが、他方で「1 時間未満」も 22%見られた。

- ・ 「1 時間以上 1 時間 30 分未満」が全体の 43%、「1 時間 30 分以上 2 時間未満」が 11%、「2 時間以上 3 時間未満」が 17%、「3 時間以上 4 時間未満」も 9%あった。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・ 試験の成績は例年と変わらず、力がついているように見えるものの、学生自身の実感が例年と比べてかなり低かった。学生ができるようになったことを可視化する試みを行いたい。

- ・ 「十分得られた」が 76%、「おおむね得られた」が 11%であった。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 「積極的に促していた」が 85%、「おおむね促していた」が 15%であった。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ 受講生のうち 1 名を除き全員がアンケートに回答してくれた。学生たちがおおむね肯定的に評価をしている。毎回ペアワークを実施していることや課題を添削して返していることを高く評価しているようである。中には課題の量の多さを指摘している学生もいたが、学習内容を完全に理解するために必要な過程として教員が考えて課している。

- ・ 他の学生との交流や、授業中の外部サイトを利用した取り組みについて良かったとする声が多かった。一方で、例年かなり高い満足度を維持していたが、今回の総合的評価はやや低かった。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・ すべて対面で実施したので、学生同士の交流ができたことや理解度をその場で確認できたこと



がよかった。

・昨年度からやや欠席が増えている印象である。なかにはテストやドリルの成績は良いものの、途中から授業に來れなくなる学生がおり、学校のサポートが必要かもしれないと感じている。

## 日本語・日本事情科目

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・「30分未満」から「2時間以上3時間未満」までと幅のある回答だったが、おおむね1単位である本授業の予習復習として適正な負担であったことがわかる。引き続き課題内容や提出頻度の見直しをはかるとともに、学習者が考えを深めるためのしかけづくりに取り組みたい。

・「1時間以上1時間30分未満」が56%（5名）で最も多く、「2時間以上3時間未満」が44%（4名）だった。この二極分化は受講生の日本語能力差によるものと思われるが、学習時間は想定内である。

### 2) 受講生が実感する学習成果

・半数以上が「十分得られた」との回答であり、学習者側から見ても一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。

・「おおむね得られた」56%（5名）、「十分得られた」22%（2名）と多くから肯定的な評価が得られた一方、「あまり得られなかった」22%（2名）という否定的な評価も得た。否定的な評価をした者のうち1名は「もっと面白くしたらいい」とコメントしていた。「もっと面白く」とは授業内容のことなのか授業方法のことなのか定かではない。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・半数以上が「積極的に促していた」との回答であり、講義への参加にあたって自主的な考察や積極的な参加が促され、その必要性を学習者自身が感じたものと解釈できる。

・「積極的に促していた」56%（5名）、「おおむね促していた」33%（3名）と多くから肯定的な評価が得られた一方、「あまり促していなかった」11%（1名）という否定的な評価もあった。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・半数以上が「とても良かった」との回答であった。自由コメントとして、プレゼンテーションの基礎知識の獲得や授業の進行方法への肯定的意見が見られた。

・「おおむね良かった」56%（5名）、「とても良かった」44%（4名）と肯定的な評価が得られた。最近の日本の状況を理解するとともにその他の国の状況も理解できた、話す練習やレポートを書くことにより日本語力も伸びた、といった肯定する意見があった一方で、授業の終了時間を守ってほしかったという指摘もあった。授業が数分伸びてしまったことが複数回あったことを反省している。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

・授業内容は受講生の希望をもとに決定しているので、受講生のニーズにほぼ則したものだと思われる。全回対面授業を行なったが、欠席者が多く出席を促す指導を例年より多く行った。出席者の履修態度は全般的に良かったが、日本語能力差が顕著なクラスだった。

## 教養教育科目

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・人文社会科学分野の平均よりやや多めの回答となっていた。より考えさせる内容の課題の問い方を検討したい。

・量的にははまだ文科省の定める大学設置基準の水準には至らないが、提出物や授業中の発言、授業内外での質問を見ていると、質的には向上していると思われる。授業外での学習の手助けになる参考文献や資料などの提示をこれまで以上に明確化したい。

・「30分以上1時間以内」20%、「1時間以上1時間30分未満」27%、「1時間30分以上2時間未満」40%であった。1時間半以上の学習時間をさく学生が40%もいたのは、少し課題が大きすぎたように考える。若干負担を軽くした方が良いのではないかと考え始めている。

・「1時間未満」の学生が半数、それ以上の学生が半数だった。学問分野の特性上、勉強時間に差が出るのは仕方がないと感じるが、「30分未満」の学生が1/4いるので改善したい。

・少ないように感じるが、実験科目であり、その時間に集中することが重要である。

・15回合計で学習時間が7.5時間未満の学生が4割程度いる。時間外の学習時間のほとんどは最終課題に要したものだと思うが、それが7時間なら問題ないし、それが4時間とかであれば残念だと思う。授業時間内で考える時間を設けるようにしている。

・授業外でのレポートを課しているが、時間外学習を「全くしなかった」との回答が5人(2%)、「30分未満」が43人(20%)もあることに疑問を覚える。少なくとも30分以上を要するレポート課題を出している。アンケートにどの程度真剣に回答しているのか疑わしくなる。

・平均よりやや短い結果が示されている。机の前で学習するばかりが授業時間外学習なのではなく、日常生活において授業で学んだことを適用したり、展開したり、あるいは将来について検討する等も含めて授業時間外学習であると伝えるようにしている。

・学習目標の一つである簡単な会話能力を養うためには時間外の予習・復習が重要になる。「30分以上1時間未満」という回答が多い中、時間が取れていない学生がいるためフォローの必要性を感じた。90分という限られた時間で、手話実技と講義を分かり易く指導できるよう、講師2名が連携し授業を進めるよう努める。

### 2) 受講生が実感する学習成果

・授業での新たな発見があったとの趣旨の回答が見られ、そのような学生にとっては一定の満足が得られたと思う。

・100名を超える授業で一人一人に手が届くわけではないが、ある程度学んでよかったと感じているようだ。これ以上の成果を求めるならば、受講者数を制限する必要がある。どちらがいいだろうか。

- ・第1回の授業開始前に取ったアンケートでは焼酎に対してネガティブな意見が多かった。しかし本講義を受講したことで、焼酎の魅力を感じた学生が大半を占めた。
- ・どちらかと言えば繰り返し繰り返しの摺り込みを意識して講義を実施している。
- ・「十分得られた」が27.6%、「おおむね得られた」が64.2%と高かったことから、評価できると判断される。生物学に関する基本的情報について理解してもらえたと思う。高校で生物を履修していた学生にとっては平易であった可能性がある。より専門的な内容も組み込みたい。
- ・小レポート作成の過程で通常の座学授業よりも知識が身についている。
- ・「おおむね得られた」学生が100%であったことは評価できると思う。手話言語はコミュニケーション能力を研くことでもあると考え、グループワークや2人組を意識し授業を進めた結果、学生が主体的に手話言語やろう者の暮らし・歴史に向き合えたのではないかと思う。今後も発表の機会を増やし、それを学生全員で共有して講師が助言するスタイルで進める。また、今まで通り2回小テストを行うことで、学生自身が個々の理解度を確認し今後の学習に生かせるようにする。
- ・おおむね、留学生とのやさしい日本語によるコミュニケーションから「伝える力」を得られた点に学習成果を感じているようである。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・学生同士の班討論と発表は、今期のこの両クラスは例年に比べてもさらに素晴らしいものがあった。学生の努力を最大限に称賛したい。
- ・「おおむね促していた」が20%、「積極的に促していた」が80%、トータルで100%の学生よりアクティブな授業だと評価された。
- ・事後学習用の小テストを毎回作成し、授業内容を復習しやすいようにした。学生同士で考えたことをアウトプットする時間を設けた。
- ・100名を超える授業だが、responなどを頻繁に使っていることもあるのか、授業中にも色々考えている学生がそれなりにいるようだ。
- ・双方向のコミュニケーションツールの継続利用、ハイブリッド授業など対面のコミュニケーションも復活させて講義に取り組みたい。留学生は遠隔授業でかつ一方的な日本語だけなのでかなり理解度が厳しかっただろう推測している。
- ・高校で生物学を履修していなかった学生には分かりやすく、履修していた学生には専門的で最新の研究成果等について説明した。理解必須の内容について網羅した上で、専門的かつ最新の内容の紹介に、より多くの時間を費やしたい。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・グループ学習と個人の学びのバランスが難しいが、今年は適当であったと捉えている。ビジネスプランの初期案の策定期間を2週ほど前倒しする。
- ・シラバスの授業予定に比べて、授業が遅れがちであるとの指摘が複数あった。できるだけ計画通りに進むよう教材の精選を進めると共に、より高度なことまで学習したいという学生の希望にも添えるような工夫をしたい。
- ・難しい抽象的な概念に対し、具体例を交えた説明とグループワークを通して理解を深めること

ができたという意見が多かった。それでも、全く哲学に触れたことのない学生は馴染みのない概念にとまどうこともあったようだ。初学者にとっても分かりやすい説明を心がけているが、初出の専門用語の説明の際は、できるだけゆっくり話すように一層気をつけたい。

- ・授業中の体験実験、respon、受講生間のディスカッションなどは、こちらの狙い通り良く評価されていた。一方で、respon などの回答時間が短いとの指摘があった。respon などの回答時間は長くすると、検索して答える人が多くなるという弊害がある。これを理解するように促す工夫が必要かもしれない。

- ・殆どの学生が「とても良かった」「おおむね良かった」と回答しており、総合的に良い評価が得られた。Zoom 回で実施していた respon によるクイズ形式の発問やグループワークに対し、高評価のコメントが多かったので継続したい。グループワークの時間に学生同士がより連絡を取りやすくできるように調整したい

- ・200 人以上いる受講生のレベルは差があるのは承知の上授業をしている。どのレベルに合わせるかは常に考察しながら講義を実施している。小テストの実施時間の長さについてのコメントが散見されたが、今のところ改善するつもりはない。

- ・講義で使用するスライドのレジюмеを前もって学生に配布しているが、作り込まれており内容が分かりやすく予習と復習に役立てることができるといことで好評であった。レジюмеの内容については常にブラッシュアップし、改善していきたい。

- ・総合的評価は「とても良かった」と「おおむね良かった」で 96%であり、評価は高いと思われる。ハイブリッドで行った点、授業資料や授業動画を公開した点が良かったという記述が多く見られた。授業スピードが早いという意見がいくつか見られた。

- ・平均より高い結果が示されている。本授業のゲスト講師は本学役員が中心であり、まずもってゲスト講師の先生方の事前準備が素晴らしい。授業担当教員はこれらの素晴らしい講話内容を受講生の学びに結びつけていくことが使命であり、ペアワークや最終レポートの課題設定等を工夫するようにしている。

##### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・本講義は講義の最終回にグループによるビジネスプランの発表を設定している。講義前半は個人の学び、後半はグループ学習へと移行するよう設定している。グループ学習に際しても機械的にグループを分けることはせず、自らの意思でグループを組成するようにしている。多くのグループでは役割・責任分担が成立しているが、一部、フリーライダー（ただのり、名前を連ねるだけでグループ作業に参画しない者）もあり、不公平感を訴える学生もいる。そのため、グループ毎のレポートの完成度だけでなく、レポート・プレゼン作成に自らがどのように関与したのか、またグループ内で最も貢献度が高かったのは誰かという自己・他己評価を最終レポートに組み込み、個人の比率を相対的に高める工夫を行っている。

- ・やはり、90 点以上を全受講生の 20%以内に収めなければならないという縛りは理不尽に感じられた。絶対評価を基礎とする大学における成績評価と矛盾している。

- ・毎年、後期水曜 1 限は少数精鋭で素晴らしい学生が集まるが、今期は水曜 1 限・木曜 2 限共に例年以上に学生の取り組みが向上していた。学生諸君の授業進行への協力にも感謝したい。今期

の授業の様子を今一度教員の側で可視化し、それに基づいて来期以降の授業方法・内容の改善に努める。

- ・本授業では「対話」を非常に重視する。他者との、ないしはグループでの「対話」について、わかりやすく、かつ効果的な教育方法を考案する必要がある。「熟議」の方法やシャントル・ムフの「闘技的民主主義」の方法も取り入れて「対話」実践を試みたい。

- ・各回で紹介した概念の具体例を身近な例で考える時間と、学生同士で意見を共有する時間を設けたことで、哲学者の抽象的な問題を自分なりに消化できた学生が多かったのではないかと思う。授業の感想としても「面白かった」、「楽しかった」という意見が多かった。

- ・受講人数が 200 名を超えていて、対面授業をおこなうと窮屈であった。対面と遠隔のハイブリット形式の授業が手軽にできるような設備（集音マイクや制御用 PC など）の貸出やサポート人員の配置があるとやりやすいと思う。

- ・250 人以上の遠隔授業なので、学生の顔つき（理解度）が小テストやレポートでしか見られないのがとても厳しい。反面、250 人以上の対面である場合、対面をすると学生間の座る距離も近く、息苦しい等のコメントがあったのが気になっている。あまり実施したくはないが、250 人を 2 回に分けての実施も検討する必要があるかとも考えている。加えて受講人数の削減の必要性も検討して欲しい。

- ・真面目に受講しレポートを出せば単位を認定しているため、楽に単位が得られると思われているのか、2 年次以降の学生で履修登録しているが出席が足りない学生が多くいた。あと 2 回以上休むと単位認定ができないとか、レポートも遅れての提出を促したが対応するものは稀であった。しかし、取り組みは続ける。

- ・共通教育科目の受講態度の悪化が顕著である。また、単位への楽観視も強く、ただレポートを出せば良いと考えていたり、あるいは成績発表後のゴリ押しも目に余る状態になっている。こうした問題行動をとる受講生は全体の一部だとはいえ、共通教育として対応の検討を開始するべきではないだろうか。

- ・技術学習に重きを置いた授業なので、対面での授業に拘り学習を進めた。学生の反応をみながら、もう少しグループワークや発表の場を設けても良かったのではないかと思った。

公開日 令和 6 年 6 月 21 日  
文責 鹿児島大学共通教育センター  
FD 委員会委員長 大野克彦